

## 巻頭言

# 和牛生産基地の設定

蔵 知 毅

和牛は本県畜産の大宗であると共に、全国的にも生産県として知られているわけであるが、その和牛が近年次第に減少して来て、遂に10万頭の大台の線を割ったのである。このことは、生産県であるだけに大きな問題となって来る。尤もこのことは独り本県のみならず、中国各県の現象ではあってみても、肉資源の不足している今日、最も有力な生産県で頭数が減少していることに問題があると思うのである。

頭数の増加を図るためには種々な方策があるわけであるが、何と云っても生産頭数の増加を図ることが根本的な問題になって来るのであるから、そのために行政力の集中化が必要になって来ると思うのである。

このことは反面に於ては和牛の生産の経済性とも関連することであって、経済効果を挙げなければ掛声ばかりに終わることにもなるわけである。そこで県は和牛の生産基地の設定を計画し、適地に於て計画的に和牛の飼育を行ない、生産増加に対するあらゆる角度からの検討を加えることにしているのである。

例えば町村指導員を設置して飼養管理の根本的改善を図るとか、飼料問題を解決するために牧野改良をしたり、サイロを設置したりすると共に、冬飼い

の問題を改善して、連産性を高めるとか、畜舎の改造や堆肥舎の設置をして、経営との結合を強化する等、あらゆる面から検討を加えているのである。

又生産農家の多頭飼育を奨励し、収入増も計画しているのである。一面に於ては犢の屠殺を防止するため、幼令肥育や若令肥育等の試験も行ない、肉の生産向上をも図っているのである。

この様に一地区に対して集約的に濃密指導を行ない、生産の増強を図ることにより、和牛全体の振興を進めているのであるが、和牛振興の問題は生産地全体の問題でもあるので、それぞれの生産地に合った様な増産計画を樹て、大いに生産に努力して頂きたいものである。